小17　町田市立成瀬台小学校

2024年度　授業改善推進プラン（全体計画）

学校経営方針（学力向上に関わる要点）

〇子どもが喜びをもって学び、一人一人が大切にされている学校（Study）
①学校全体が人間尊重の精神で貫かれている。
　本校は障がいのある子をはじめ、それぞれの子がそれぞれの環境や状況のもとで懸命に生きている。全校児童、教職員が子どもたちの「よさ」を認め合い、尊重し合い、協力し合う学校とする。
②一人一人の子どもに即した指導が行われている。
　教育の仕事は、人間を育てるということを根本でしっかりもち、実践はより具体的に子どもの心に届く授業を行う。指導の工夫をし、学力の定着・向上を図る。
③生きる力を育む学習が行われている。

授業改善の重点

〇主体的・対話的で深い学びの授業の創造
校内研究で、主体的・対話的で深い学びを通した特別の教科　道徳の研究を行う。
各教科で「PDCAサイクル」を行い、指導改善のための評価を取り入れて学習の向上を図る。
読書活動やスピーチ等言語活動を充実させ対話的学習の向上を図る。
〇ICTを用いた個に応じた指導の充実
「東京ベーシックドリル」「国や都の学力調査」等を活用し実態を把握する。
「Navima」をはじめとしたICT機器を活用し、基礎基本の定着を図る。
「習熟度別」少人数指導を行い、個に応じた指導を充実させる。

各教科の指導の重点

国語科	音楽科
〇自分の思いや気持ちを適切な言葉で表現することが苦手な児童が多い。一分間スピーチなどを行い、全体の前で話す力をつける。 〇話を聞き、その内容や意図をしっかり理解できない児童が多い。読み聞かせの活動などを通し、聞く力、想像力を養う。	〇鍵盤ハーモニカやリコーダーの演奏方法など、基礎的技能を定着させる。クラスの中で、お互いに教え合い活動を行ったり、苦手な児童には個別の指導を行ったりする。 〇人前で表現する活動が苦手である。小グループでの活動を取り入れ、互いの表現を聞きあうことで、表現する楽しさを感じさせる。
社会科	**図工科**
〇資料を深く読み取ったり、活用したりする能力を高める必要がある。資料を比較する際のポイントや連続的な数値の変化の読み取り方に重点を置いて指導する。 〇資料から考えたことを発表することが苦手である。資料を読み取る活動、自分の考えをｸﾞﾙｰﾌﾟなどで発表する機会を多く設ける。	**〇基本的な道具の扱い方が定着していない。説明を視覚化するなど学習意欲を高めるための授業の組み立てを工夫する。 〇技能面での個人差が大きく、意欲が生かしきれていない。お互いに作品のよさを見合ったり、制作方法の具体的な支援を行ったりする。**
算数科	**家庭科**
〇基本的な計算力に差がある。習熟度別指導を行ったり、朝学習で東京ベーシックドリルを活用したりして計算の基礎・基本を定着させる。 〇答えは出せても、自分の考えを表現したり説明したりできない児童がいる。思考力・表現力を高めるために、言葉や式だけではなく、図や表などを用いて考えを表現したり説明したりする活動をさらに充実させていく。	〇個別の作業では技能の定着に差がある。作業の順序を確認し、説明を視覚化するなど学習意欲を高めるための授業の組み立てを工夫する。
理科	**体育科**
〇自分で工夫して実験を計画したり、結果を予想したりする力をつけるために、計画・予想から結果・考察を順序立てて指導するようにする。	〇体力や持久力をつけるために、鬼遊びなどで、遊びながら体力がつけられるように工夫する。 〇めあてをもって学習に取り組めるように、活動ごとに学習カードを作り、互いに話し合い励まし合う機会を多く設ける。
生活科	**外国語科（5・6年生）**
〇児童の興味・関心をもとに、体験的・探求的な学習を充実させ、主体的に課題を追究し、解決できる資質や能力を育成し、各教科、道徳及び特別活動によって培われた力が総合的に働くようにする。	〇必然性のある言語活動（やりとり・発表）を設定し、「伝わる」うれしさを味わわせるとともに、外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする主体的な学びを目指す。 〇初見で「分からない」表現は気にさせず、推測「guess」しながら、聞かせる。（何となく分かる程度）

総合的な学習の時間の指導の重点	特別の教科 道徳の指導の重点
〇児童の興味・関心をもとに、体験的・探求的な学習を充実させ、主体的に課題を追究し、解決できる資質や能力を育成し、各教科、道徳及び特別活動によって培われた力が総合的に働くようにする。	〇特別の教科道徳の時間を要として、学校の教育活動全体を通じて行い、生命尊重や人間尊重の精神の育成と共に人権意識、自尊感情を育てる。 〇教科書を中心に、町田市版道徳副読本・東京都道徳教育教材集等も活用して、児童の公共心、規範意識の高揚を目指す。

特別活動の指導の重点	外国語活動（3・4年）の指導の重点
〇児童会活動・クラブ活動・学校行事では、望ましい集団活動の展開と望ましい集団の育成を通して、それぞれのねらいや特性を生かし、児童一人一人の個性や能力の伸長を図る。学級活動を通して、望ましい人間関係を築き、豊かな学級作りをする。成瀬台タイムや、たてわり班での台小まつりや全校遠足、清掃活動を行う。異学年交流を通して児童相互の触れ合いや助	**〇町田市小学校英語教育カリキュラムを参考に指導し、HRT（T1）及びALT（T2）が連携した指導とHRT単独型指導の充実させる。 〇必然性のある言語活動を設定し、「伝わってうれしい。」という思いを大切にする。**

本校の授業改善に向けて

・NAVIMAを使用し、習熟差に応じた個別指導が行える工夫や、基礎基本の定着に向けて継続的にくりかえし学習している。 ・デシタル教科書などを活用し、より具体的に理解できるようにしている。答えを書くだけでなく、その理由を書かせたり、その良さに気づかせたりして、自分の考えをより分かりやすく相手に伝える活動を多く取り入れ、思考力・表現力を高めるようにしている。 ・実物投影機やスライド、動画等の使用により、学習や作業の順序確認や説明の視覚化をする。	・研究推進部を中心に見通しをもたせる導入に対する指導案をPDCAサイクルで計画検討、実行、改善して ・児童の の活用	・対話に向けた主体的な学びは、発問後、主体的に思考し、すぐに表現しようとする姿や、問題に対想され い発問 を捉え する。 した 値に

各校の授業改善に向けて3点、設定する。
なお主な視点として**授業をデザインする8つの取組**をもと主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善を行う。